

「黄色ブドウ球菌菌血症における迅速PCR法導入の効果に関する検討」について

加古川中央市民病院薬剤部では現在、入院患者さんの血液培養から黄色ブドウ球菌が検出された患者さんを対象に以下の研究を実施しております。

尚、この研究についてご質問がございましたら、最後に記しております【問い合わせ窓口】まで連絡ください。

【研究概要及び利用目的】

黄色ブドウ球菌菌血症(SAB)は、適切な抗菌薬投与が遅れると死亡率が高率となると報告されています。また、迅速遺伝子検査診断による抗菌薬適正使用支援(Antimicrobial Stewardship(以下AS))の介入は、適切な抗菌薬投与までの期間を短縮させる、また予後を改善させるとの報告があります。

当院では2022年4月からSABに対する迅速遺伝子検査診断のpolymerase chain reaction(PCR)法を導入し、AS活動を実施しています。今回、PCR法導入前後のde-escalationまでの抗菌薬投与の時間、死亡率、入院期間の変化からPCR法導入の効果을明らかにします。

【研究期間】

病院長承認日～2025年3月の期間

【取り扱うデータおよび試料・情報の項目】

2021年4月から2023年3月の期間に加古川中央市民病院に黄色ブドウ球菌菌血症となった患者さんの診療録より下記データを収集します。

基本情報：生年月日、性別、血液検査など

患者情報：診断名、薬剤、投与量、投与期間、併存疾患、合併症など

【個人情報保護の方法】

研究期間中、患者さんの個人情報厳重に守られるようにして研究は進められます。患者さんのカルテより収集させていただいたデータは、期間中、個人情報とは無関係の番号を付して研究対象者識別番号リストを作成し、第三者が識別できないように匿名化した状態で保存いたします。

【データ提供による利益・不利益】

この研究では、通常の診療とは別に、患者さんに新たに医療行為を行うことはありません。そのため、この臨床研究への参加による直接的利益や不利益はありません。

【登録終了後のデータの取り扱いについて】

本研究において収集したデータは少なくとも本研究の終了報告から5年を経過した日または本研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過したいずれか遅い日までの期間、施設可能な場所で適切に保管いたします。廃棄する際は、復元不可能な状態とします。

【研究成果の公表について】

この研究の成果は、関連学会への発表等で公に発表します。その場合もあなたの個人情報は秘密に厳重に守られ第三者にわからないようにしています。

[研究へのデータ使用の取りやめについて]

いつでも可能です。患者さんのデータを用いたくない場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取りやめの申し出を受けた以降、その患者さんのデータは本研究に用いることはありません。しかし、同意を取り消された時点で、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合には廃棄できません。

[情報の提供を行う機関の名称及び管理責任者の氏名]

加古川中央市民病院 院長 大西 祥男

[問い合わせ窓口]

この研究の問い合わせだけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかお知りになりたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない時など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせください。

加古川中央市民病院 薬剤部
研究責任者名 宮崎 祐介
連絡先：079-451-5500